

学校だより

10月号



三中HP

アクセス
QRコード

それゆけ三中

教育目標：より確かに・より豊かに・より逞しく

令和3年10月1日

足利市立第三中学校

生徒数：190名

発行者：高木秀和



9月の残暑日は数少なく、過ごしやすい日々が続きました。そのせいでしょうか、街路樹の頭も黄色、茶色とまだらに色づきはじめています。中庭のけやきもこの数週間で葉を落としています。9月13日(月)より一斉登校が始まり、さらに21日(火)からは日程を通常に、部活動、駅伝練習も再開しました。緊急事態宣言を受けての制約の中、秋の学校行事をどう実践するか、生徒と教員でスクラムを組み、できること、新しい方法を探求し企画しています。賑やかな活気溢れる学び舎というより、静けさの中に闘志をたたえる学び舎がふさわしいでしょうか、子どもたちのパワーとそれを支える先生方の頼もしさを日々感じます。先月号でもお伝えしましたが、「無駄なことは一つもない」という心構えで、今できることに最善を尽くしながら、生徒、教職員ともに歩んでいます。また、度重なる保護者通知、メール等に対しましてご理解をいただきありがとうございます。

ガーベラ：本校花壇より、川崎先生が育てています：花言葉「前進」



表彰集会

7月20日の1学期終業式に続いて、校長室にて表彰集会を行いました。放送音声のみの実施で、表彰の様子は事務室前のモニターで後から公開放映しました。ここで、表彰について紹介します。皆さんの、部活動や文化活動での活躍を大変嬉しく思います。おめでとうございます。

春季体育大会地区予選会(水泳)	3年男子 50m	自由形第1位、100m 自由形第1位
	1年男子 50m	自由形第2位、100m 自由形第1位
栃木県春季体育大会(水泳)	3年男子 50m	自由形第2位
	1年男子 100m	自由形第3位
総合体育大会地区予選会(水泳)	男子 50m	自由形第1位、100m 自由形第1位
総合体育大会地区予選会(バドミントン)		
男子団体準優勝		
男子ダブルス優勝		第三位
総合体育大会地区予選会(卓球)		
女子団体第三位		
男女共同参画週間事業キャッチフレーズ部門	優秀賞	

分散登校 9/1(水)~9/10(金)

2学期のスタート8日間の分散登校では、授業時間も短縮して行いました。初日には、養護の須藤先生が飛沫感染を防ぐための歯磨き方法をリモートで指導してくださいました。授業にも給食にも、生徒皆さん一人一人が感染症拡大防止に対する自覚をもって取り組んでいました。



かなり久しぶりの登場：冷凍みかん(なぜか「涼しい日に出る冷凍みかん」、今回もそのジンクスを守りました)



体育祭【10月6日(水)】に向けて！ 学級旗完成！



1-1 狼桜 1-2 緑龍 2-1 虎炎 2-2 獅光 3-1 赤龍 3-2 青鯨



昼休み：体育委員の会議

は全く同じです。同じ目的で時間を共有し、一人一人の思いや考えが、言葉にせずとも、眼差しやしぐさからぶつかり合い、溶け合うことで生まれる共感、そんな貴重な体験を久しぶりに再開できたことを大変嬉しく思います。また、体育祭に向けて、各クラスの学級旗が保健室前に飾られています。夏休み、猛暑の中登校して頭を寄せ合い、筆を動かす姿にもクラスの絆を垣間見ました。

保健室前全景



クラス練習開始

秋を探して…河川散策と本格派石焼き芋



福寿橋から河川敷へ進むと、彼岸花が赤々と点在し、緑が薄く彩抜けした土手を飾っています。特別支援学級では、校外活動で秋をみつける散策をしました。また、石の蓄熱量を知る手段として、家庭用の鍋に玉石を敷き詰め本格的な石焼きいもを作りました。石の余熱の力で余計な水分を放出しこんがりとした皮の中、ほくほくの芋は甘く、学習を兼ねここでも秋を実感しました。



9月15日 カスリーン台風74回忌追悼式

台風被害を継承し、当時の方々を追悼する式典が毎年行われています。犠牲者のお名前が一人一人、二人の住職さんによって読み上げられました。突如押し寄せた濁流に吞まれ、命を奪われたことすら意識する間もなかった方々、その無念の思いを丁寧に弔い、また、今後の災害に意識して備え学び続けることは今を生きる私たちの使命であると改めて感じました。

災害の記憶を残すために建てられたシンボルタワー：清流わたらせ21にて



安足地区少年の主張大会 9月2日(木)・中学校英語スピーチ大会 10月11日(月)中止について

安足地区少年の主張大会には、3年1組の[]さんが出場予定でしたが、大会実施は中止となり、書類審査に変わりました。また、中学校英語スピーチ大会には、1年2組の[]くん、2年1組の[]さん、2年2組の[]くん、3年1組の[]くんが出場予定でしたが、こちらは大会自体が中止となりました。出場予定の皆さんは、10月25日の文化発表会（午前の部）にて発表を披露します。大会にむけての努力は、全て自分自身の糧になっています。一歩前進、成長した仲間に、チーム三中としてエールを贈りましょう。



地区新人大会、県新人大会は中止・学校音楽祭は音源審査

新人大会は地区、県ともに中止となりました。今後、子どもたちの活動を認め支援するための交流、強化大会等が検討されています。吹奏楽部は審査に向け、日々「うつくしの島」の音色を磨いています。



ある朝の黒板より

おはようございます。昨日の夜、少し散歩に出かけたのですが、月がとってもきれいで心が落ち着きました。こういうおだやかな時間で大切なな～と感じました。今日は満月🌕して十五夜ですね。晴れてきれいな月が見えるといいですね。

授業研究会(かなふり松プロジェクト) 9月24日(金)



皆さんが、自分から学びたいと意欲をかき立てられるような授業を目指して今回は、[]先生と[]先生が研究授業を行いました。英語では即興で話すことをメインに、自立活動ではICTを活用した言語学習、それぞれ、皆さんの学ぶ意欲を高めるものでした。

教育実習スタート(後期)

[]が英語の実習（学級2年2組）を行っています。授業や給食昼休み、部活動と様々な場面で実習の先生と触れ合って、先輩の学ぶ姿に皆さんも学んでください。



生きているだけで丸もうけ (10月 学校集会より)

みなさんは、明石家さんまさんを知っていますね。いつも明るくて、楽しそうで、誰からも愛される人です。そんなさんまさんが、誰かからサインをい頼まれたら必ず書く言葉があります。それが、「生きているだけで丸もうけ」です。この言葉の意味は、「今、生きていることが一番大切だよ」ということだと思います。そしてなんと、さんまさんは自分の娘に、この言葉から一つずつとって「いる」と名付けたのです。

では、なぜそこまで、この言葉にこだわるのでしょうか。さんまさんは、三歳の時に、実のお母さんを病気で亡くしています。お父さんは別な女の人と再婚し、新しいお母さんができました。でも、なかなか仲良くすることができませんでした。そこで、お母さんに気に入られようと、必死でおもしろい話を考えていた少年時代を過ごしています。それが、今のさんまさんのおもしろさに繋がっています。

新しいお母さんにやがて男の子が生まれました。弟ができたことに大喜びしたさんまさんは、とてもかわいがったそうです。ところが、その弟も事故で亡くしてしまいました。

今から、三十六年前、日本航空のジェット機が墜落して多くの人が亡くなるという事故がありました。実は、さんまさんは、その飛行機に乗る予定だったそうです。たまたま、自分が出ていた番組がはやく終わり、一つ前の飛行機に乗ったので、事故に遭わずに済みました。予定していた便に乗っていたら、命を落としていたかも知れません。

みなさんは、こうして毎日元気で学校に通い、友達や家族の人と過ごしています。でも、防ぎようのない病気や事故、災害とは別に、いじめが原因で命を落とす人もいます。こんなに悲しいことはありません。どうしようもない苦しみに出会ったときには、必ず誰かがそばにいてくれます。そして勇気を出して「助けて」と声をあげてほしいのです。「生きているだけで丸もうけ」は、みなさんが苦しいときには気持ちを軽くし、救ってくれる言葉だと、私は思います。

2学期が始まって一ヶ月、学校生活が続く中で、少し疲れ気味の人がいたらと、今日の話をしました。



りようせい こなざとう のほるようそくすべりこみ こくえい のびてもんぴとく
涼 青に粉砂糖 昇る陽足すべり込み けやきの黒影 伸びて門扉解く